



# JAC北九だより

No.66 (平成25年 第4号)

公益社団法人 日本山岳会 北九州支部

kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行:公益社団法人 日本山岳会北九州支部  
 支部長 伊藤 久次郎  
 事務局:福岡市早良区昭代 3-9-5-502  
 山田 武史方  
 TEL-FAX 自宅 092-844-3563  
 携帯 090-6422-5662  
 編集人: 竹本 正幸  
 印刷: 山口県山口市水の上町2-25  
 内藤 製本所

平成25年9月28日(土)~29日(日)

## 九州5支部懇談会開催

=福岡県大宰府市・参加者65人=



森会長を囲んで北九州支部のメンバー

9月28日太宰府市のホテル グランディア大宰府にて日本山岳会・九州5支部懇談会が福岡支部の主管で開催された。

参加者は北九州支部13人、東九州支部10人、熊本支部8人、宮崎支部12人、福岡支部22人。合計65人が参加し盛況であった。

1. 福岡支部中馬支部長の挨拶
2. 森武昭会長の挨拶

日本山岳会の現状は、会員約5200人、平均年齢67才、単純に計算するとこのままでは10年後には半分になる。

### ①会員の増強

支部で新入会員を増やす。入会金の20%(4000円)を支部に還元する。その後に「2年間の臨時措置を」追加する。

### ②若い人を入れるには、リーダーを育てる。

- ・ユースクラブで若手の育成。

- ・支部を強化したい。森会長自ら支部担当を引き受けられた。

- ・支部主催事業が本部に承認された場合、本部から補助金(20万円)を出し支援する。試行期間3年。優秀な事業には50万円を支給する。

### ③技術レベルの問題

- ・初心者・中級クラスの研修プログラムを検討して、JACとして講習会を開催したい。

### ④「山の日」制定については国会議員で「山の日制定議員連盟」をつくり取り組んでいる。

### ⑤日本山岳協会との関係について「従来、東京都山岳連盟に属していたが、近々退会予定。退会後は他山岳団体の連絡協議会の枠に入るが、日山協には入らない」

最後に森会長の自己紹介があり、平成7年に秩父宮学術賞(現在の秩父宮記念山岳賞)を受賞されたことが紹介された。

## 3. 各支部長よりの近況報告(詳細は省略)

- ①伊藤久次郎 北九州支部長
- ②加藤英彦 東九州支部長
- ③工藤文明 熊本支部長
- ④末永軍朗 宮崎支部長
- ⑤中馬董人 福岡支部長

## 4. 記念講演は15時50分～

講師：小西信二氏(太宰府市文化ふれあい会館館長、日本山岳会福岡支部会員)  
「宝満山の国史跡指定について」

宝満山は、鳥海山、富士山に続いて3番目に国の史跡指定になる予定。古代山岳信仰の山としての指定を受けるに当たり、宝満山の歴史、かかわりなどについて講演された。

## 5. 18時から懇親会

各支部の余興では、北九州支部の「炭坑節踊」を最初に、東九州の「宇目の唄げんか」熊本支部の「火の国旅情」福岡支部の「ソロバン踊り」など楽しいひと時を過ごしました。

最後に全員で肩を組みながら、坊がつる讃歌を歌って参加者の心が一つになりました。

竹本正幸 記

9月30日(日)

## 記念山行「宝満山登山」

13992 山田 武史

29日(日)に開催された記念山行は次の3コースが用意されておりました。北九州支部から四王寺山コースに5人、宝満山コースに2人が参加しました。

- ① 四王寺山の「歴史」ハイキングコース
- ② 宝満山登山コース
- ③ 自由散策コース

この中で私が参加した「宝満山登山コース」について、ご報告致します。

このコースの参加者は、日本山岳会の森会長をはじめ総勢24人が「竈門(かまど)神社」登山口に8:30に集合。竈門神社本殿で参拝後、9:00小西氏(昨日の記念講演の講師、大宰府市文化ふれあい館館長)を先頭に、所々で説明を受けながら、石段が連続する登山道を必死に登る。

久し振りの山行と昨夜の酒が残っていたためか、汗は噴き出し体は重い。3合目の水場で一息入れる。百段ガンギ、中宮跡、袖すり岩を通過して上宮のある宝満山頂上(829m)に11:00到着。

小西館長の説明によると、頂上の標高は2説あり、上宮前のコンクリート面が829m、上宮裏の巨石の頭が832mとのこと。ちなみにある地図は、829m又は830mと記載が分かれていた。

上宮の社殿は、外敵が入って来ないように玄界灘(西北)に向いて建てられている。通常の社殿は南、又は、東向きが多い中で福岡に所在する神社(宗像大社、筥崎宮等)は、玄界灘方向に向いて建てられている。

小西館長の説明を受け、頂上で記念写真撮影後、「西鉄山の会」が経営するキャンプ場へ移動して昼食。本日は曇天ながらも、ここまでは雨はなかったが、キャンプ場の小屋で昼食中に、午後から雨との天気予報通り、雨が降って来た。本振りになると予想し、昼食後、小屋の中でレインウェア上下を着て完全装備を整えた。小屋を出て見ると雨はないが、そのままの服装で12:00に小屋を出発した。結果として雨は一時的なものだったので、次の休憩時にレインウェアを脱いだが、以後は小雨程度で問題はなかった。



宝満山山頂にて

下山は、登って来た石段を下るのだが膝に負担がかかる。一の鳥居から車道を歩いて程なく、「六所宝塔跡」があり、その場所に足を踏み入れて、小西氏より詳細の説明を受けた。日本国内に6カ所しかない宝塔の一つが宝満山にあることを古文書で知った小西氏は33年前(1980年頃)藪の中から、この宝塔跡を発見した由。今は、跡地も伐採され、綺麗に整地されているが、近日中に宝満山が国の「史跡指定」(日本で鳥海山、富士山に次いで3番目)となれば、登山道の補修一つでも、自由にならないので一概には喜べないとの小西氏のコメントでした。

ちなみに、来年度は「英彦山」、「加賀の白山」も指定される可能性があるとのことでした。

次に、登山口に近い「竈門神社」の前にある「九州登山情報センター」(山の図書館)に立ち寄りしました。このセンターは設立後10年を経過、蔵書も8万冊となり、更に10万冊を目標に継続したいとのことでした。

宝満山は、慣れ親しんだ山ですが、小西館長の説明を受けての登山は又、別の味わいがありました。ありがとうございました。

・北九州支部参加者：山田武史、竹本正幸

## 9月25日(土) 今年度最後の山岳専科を終えて ＝園川陽造講師の慰労会＝



前列中央が園川陽造講師と伊藤支部長

9月25日(水) 18時～20時

今年4月より始まった園川陽造顧問による山岳技術専科は、9月7日の第6回講習を最後に今年度の講習を終了した。園川講師への感謝の気持ちを込めて慰労会を行うことになり、毎月行われている小倉サロンを慰労会の場として、受講生が集まり親睦を図った。

講習会への参加人数は、述べ79人で参加者は31人でした。最高参加人数は20人、最低参加人数は4人  
・参加者の一言

1. 一泊の講習もしてほしい。
2. 学科(机上講習)と実技講習を分けたい。
3. 講習時間が短く、見ているだけで、実際にやってみたかった。
4. 技術的なことをもっと教わりたい。
5. ザイルワークについて再度教えていただきたい。
6. 講習会の結果か、支部が変わってきている。九工大生を始め若者が増えている。
7. K市登山協会の会長をしているが、園川さんに教わったことが役立っています。特に沢登りは良い体験でした。
8. 65才から山登りを始め、南アルプスにも登りました。登りたい山ではなく登れる山に登りたい。
9. 専科のおかげで新入会員も14人増えた。今後ともよろしくお願いします。
10. 園川さんの講習は、全てが参考になります。来

年もよろしくお願いします。

11. 広島支部、東海支部を目標にがんばりましょう。などなど建設的な意見がたくさん出ました。

・園川講師からひと言

まず、山で遭難しない。そのための技術、知識を学ぶこと。また、事故に遭った時のために救助する技術を身につけておく。山岳専科に参加された方は、次の人・周りの人に指導してほしい。いつものようにジョークを交えながら、お褒めの言葉や厳しいご指摘もありました。(竹本正幸 記)

参加者(19人) 園川陽造、伊藤久次郎、関口興洋、山田武史、馬場基介、原 広美、西村信子、高島拓生、藤田 傳、大木康子、大内喜代子、竹本正幸、赤瀬榮吉、縄手 修、倉本とき子、深田英美、森義雄、堀江俊明、岡部隆直



指導中の園川講師

## 第4回山岳技術専科 7月6日(土) ロープワーク (ビレー方法)

北九457 畑井 教子



皿倉山山頂にて

皿倉山で園川先生による技術専科が行われた。今回は、ベテランメンバーに加えて新しいメンバーも多く計16人であった。

本日のテーマは、ロープワークである。まずはふもとで自己紹介をして、ビジターセンターへ登山を開始する。森林帯はかなり蒸し暑く、汗が止まることなく出続けていた。先生によるとタオルを首にかけたままだと汗の発散を妨げるそうだ。また本来は上がった体温を下げるための汗も、したたり落ちてしまうと体温維持にならない。そのため汗とともに失う塩分とカリウムをとらなければならない。もちろん水分も。そこで、登山の中では特に科学的な意識で栄養やサプリを生理学的にとらなければならない。周囲を見渡すと粉末状のクエン酸、水に梅干しを入れている、レーズン、イオンウォーターなど皆さん、さまざまな工夫が見えた。

山頂近くになると気温はぐっと下がり、7月というのに紫陽花がまだ咲いている。花は気候に正直である。水色、紫色の紫陽花を眺めながらビジターセンター

へ着くと気持ちも鼓動も落ち着いていた。山上には、盆トンボ(ウスバキトンボ)も飛び回っていた。

昼食の後、園川先生から1つ目の質問である。「スポーツとは何か」「動くこと」と即答する人が多い。先生いわく、スポーツとは、あくまでも「気ばらし、楽しむこと」である。その原点をふまえた状態で、ある程度の決められたシステムは、守らなければならない。

特に岩登りは、事故を想定したスポーツである。ロープワークはそれをより良い結果を出すために使うものであるとのこと。園川先生のロープによるパフォーマンスもあり、皆引き付けられていた。

そして、国見岩へ行き、さっそく実際のロープワークを教わる。

① 「バックリターン」(支点の補助)写真①

輪にしたロープを2つに曲げ片方をもう片方の輪の中へ通す。通した側と通す手前の2本をカラビナでつなぐ。長さも変わり、左右上下に動かしやすい便利な方法である。滑落時、岩場の移動荷物の上げ下ろしに有効。

② 「マツシャー結び」写真②

輪にしたロープを2つに曲げ、それらを交互に巻きつける方法で救助者とロープとのつなぎに役立つ。

③ 「カラビナ結び」写真③

輪にしたロープをカラビナに通し、本来の救助用のロープに巻き付けて行く。ある程度巻いたら、救助者のハーネスにつなぐ。これもマツシャー結びと同様に救助時に役立ち、ズレ落ちにくく安全にロープを上を移動できる。

④ 「ブーリン結び」(もやい結び)

普通行方本結びのまん中へ片側の先端を通す。その先端と輪になっているロープを結び。

参加者：16人

原 広美、伊藤久次郎、濱松 禮子、宮城尚志、大木康子、竹本加代子、森本信子、縄手 修、深田英美、坂井義臣、森 義雄、畑井教子、広瀬大地、高岡 瞳、久原公枝、堀江俊明



**第5回山岳技術専科 8月10日(土)****地図の見方と計測について**

北九460 堀江 俊明



皿倉山山頂にて

朝8時30分に皿倉山の駐車場に到着した。テレビなどでは、猛暑になるので、極力外出は控えた方がよいといっていた。頂上まで登ってしまえば、ある程度涼しいのはわかっているのだが、暑さは非常に苦手なので、途中でバテないかと心配だった。

山岳技術専科の参加は、7月10日の参加に続き2回目の参加となる。前回は、午後から非常に激しい雨と絶えず鳴り響く雷の中を下山することになり、こんな状況になるのであれば、ケーブルカーを使って下りればよかつ

たと思ったものだが、今日は雨の心配はないと思った。

9時頃には、参加される方全員(19人)が集合され、各々の自己紹介および諸注意の後、登山を開始した。

途中3回程程度休憩をはさみながら、無事ビジターセンターに到着した。そこで昼食・休憩を取った後、山頂まで登り、シルバーコンパスの使い方を学んだ。これは何度も利用するうちに慣れてくるのだろう。

今後も、少しずつ学んでいこうと思う。

**第6回山岳技術専科 9月7日(土)****岩場の救助技術・自己脱出**

北九463 加藤 信子

第6回のテーマは「岩場の救助技術・自己脱出」帆柱ケーブル山麓駅駐車場9時集合。

その日は、朝から今にも雨が落ちてきそうで、どんより曇っていた。

天気予報も降水確率50%と高かった。曇空を見上げながら集合場所へと車を走らせた。時間に余裕をもって到着したが、みなさん、すでに集まっていた。

久しぶりに再会した(正確には2回目ですが、あつかましくも数年来の友人のように感じる)面々と挨拶を交わしたり、Nさんよりかわいらしい柿をひとりずつ袋毎にいただいたりした。

始めるにあたり、園川陽造講師より「おばさんがただ集まっているんじゃないんですよ。技術習得のために集まっていることをしっかり自覚するように・・・」

**講習1**

皿倉平でトイレを目的地にして、シルバーコンパスを使って目的地まで歩いて行く練習。まずコンパスの向きを目的地の場所に合わせる。次にコンパスの磁北と赤い矢印を合わせる。そのままコンパスの向きに歩いて行くと目的地に着く。

**講習2**

皿倉山頂で現在地の確認。  
1/25000の地図を使って、地図上に磁北線(傾き6度)を書く。次に地図を整置する。整置はコンパスの磁北と地図上の磁北線を重ねて地図を固定する。2カ所の目印を決め、コンパスの向きを合わせて磁北と赤い線を合わせる。そのまま地図上に線を書く。2本の線が交わるところが現在地である。

参加者：19人

原 広美、伊藤久次郎、濱松 禮子、高畠拓生、関口興洋、大木康子、竹本正幸、竹本加代子、赤瀬榮吉、森本信子、縄手 修、倉本とき子、大谷恵美子、畑井 教子、堀江俊明、奥田スマ子、二尾廣巳、加藤信子、中川玲子

と話があり、気が引きしめる思いでした。

降雨に備えて雨具をリックの一番上に準備して出発した。講習会に初めて参加した20代の1さんも加わり、どこことなく新鮮で楽しい雰囲気。(園川さんも・・・あ、笑ってるウ～)



ビジターセンターにて

おしゃべりしながら煌彩の森コースを進んだ。園川さんは、はじめは両手をからだの前に組んで、そのうち両手でリックを背負うように腰に組んで、山道を一步一步踏みしめるように進んでいく。私も同じように真似た。さすが省エネ歩行と感心した。

木々に囲まれた山道を途中2回休憩をとりながら、ジターツと汗が出て心地良かった。

昼少し前、血倉ビジターセンターに到着。道中、思い思いの話をしながら、その何げない話の中にも学ぶことが多かった。「登り体力、下り技術」「槍・穂高はヘルメット着用が増えている」「白馬駅前でアイゼンを貸してくれる」「カッパの洗濯時の注意点」など。

昼食後、写真撮影で外に出るころ、雨が降り出し、室内での実技講習となった。前回の復習の後、さまざまな場面に対応できるロープの結び方。園川さん手作りのネットを使用した簡易タンカと、その活用の仕方、リュックやストックを使用した救助法などの実技指導を受けた。

まさに目からウロコでした。まるでマジックのように感じました。登山者の知恵と工夫。これはすべての生活にも通じるものがあると、改めて思い知らされました。

実際の救助用具を初めて目にし、ロープの結び方を何回教わっても難しかったけれども、園川さんはじめ、先輩の方々に手取り足取りご指導いただき、ありがたかったし嬉しかったです。

帰り道、園川さんが「自分の持っている技術を自分だけで終わらせることなく、少しでも伝えられるといいと思っている」と言われ、雨が降る中、なぜか私には、園川さんに後光が射し



ビジターセンターにて

ているように思えた。そのうち私も後に続く人たちに少しでもためになることを伝えられたらいいと、夢のような思いと熱い気持ちが入り込んできた。

若い時は、長時間かけて、きつい思いをする山登りは嫌いでした。退職後、体力維持のためにと始めた山登り。今は車を運転しながらでも山に目がいき、山に親近感を覚え「おいで、おいで」と声をかけられているように思えるのです。

山に登り始めて2年。経験も技術も、その他すべてにおいて未熟な私ですが、この講習会を

きっかけに多くのことを学び、より安全に、末永く山登りができますようにと願っています。今後ともご指導よろしくお願ひします。

参加者：20人

原 広美、伊藤久次郎、西村信子、濱松禮子、高島拓生、関口興洋、大木康子、竹本正幸、竹本加代子、赤瀬榮吉、森本信子、縄手 修、倉本とき子、大谷恵美子、塚本久嘉、畑井教子、堀江俊明、奥田スマ子、加藤信子、伊藤由紀

#### 新入会員紹介

(平成25年4月～9月)

15370 武永 靖弘 山口市 22才

#### 新入支部友紹介 (14人)

北九453 塚本 久嘉 飯塚市 62才

454 坂井 義臣 北九州市 45才

455 森 義雄 北九州市 61才

456 広瀬 大地 田川郡 23才

457 畑井 教子 北九州市 31才

458 高岡 瞳 北九州市 66才

459 久原 公枝 北九州市 65才

460 堀江 俊明 北九州市 61才

461 奥田スマ子 田川郡 65才

462 二尾 廣巳 田川市 70才

463 加藤 信子 田川市 65才

464 中川 鈴子 下関市 56才

465 伊藤 友紀 北九州市 26才

466 岡部 隆直 北九州市 31才

## 月例山行 7月17日～21日(4泊5日)

## 南アルプス(荒川三山～赤石岳)縦走登山 特集



榎島登山口

**・7月17日(水) 曇り**  
北九州～静岡～榎島  
13643 関口興洋

小倉発6:46(のぞみ4号)名古屋でこだまに乗り換え静岡着(11:17)。ジャンボタクシー2台に分乗し畑薙第一ダムへ14:12着。

東海フォレストのリムジンバスに乗り換え榎島ロッジまで1時間の行程。

今回、15年ぶりに訪れたが、この輸送方式は変わっていない。あらためて、南アルプス深南部へのアプローチに時間がかかることを再認識した。

**・7月18(木) 晴れ**  
榎島～千枚小屋  
北九425 福村拓己

榎島ロッジ(6:00)～千枚小屋(15:30)

ぐっすりと眠っていたので気付かなかったが、前夜来の強い雨、しかし出発直前には小やみになり、全員での記念撮影後、雨具を装着していよいよ出発。参加者は14人、関口リーダー(A班)を先頭にして、山田リーダー(B班)が続き、最後尾は馬場さん。幸いにも、歩き始めてしばらくすると雨がやんだので、雨具を脱いだ。関口リーダーからは、順番を乱さないように

との注意があった。

80歳の百戦錬磨のベテランから、南ア初デビューの30歳の山ガールが参加した混成チーム。初日なので、体がなじむまでは極力ゆっくりと歩くことになった。

コース行程上の各ポイントごとに、小休止し水分補給しながら、高度を稼いだ。

10時早めの昼食、弁当は巻き寿司といなりであり、お酢が効いていて食べやすかった。

ほぼ順調に登り、15時に最終休憩をとる。「あと30分」の表示板が目にとまり、全員元気を取り戻し、15時半に今日宿泊する千枚小屋に到着した。

予定のコースタイム8時間に対して、9時間半の全行程であったが、樹林帯の中をゆっくりと着実に歩き高度を稼いだので、蒸し暑かったが全員無事元気に宿泊小屋に着いた。

前日までの天気予報に反し、天気は徐々に回復して、17時半からの夕食後も山小屋前面に、くっきりと世界文化遺産に登録された富士山が浮かび上がり、うれしかった。

本日、ひそかに旅するチョウ「アサギマダラ」に出会えることを期待して登っていたが、8時55分標高1400mの林道脇のヒヨ

ドリバナにアサギマダラを確認できた。カメラに収められず残念であったが、貴重な1頭を見つけることができ良かった。

19日、20日は好天気とのうれしい予報。19時各人わくわくしながら早めに眠りについた。日本百名山である荒川岳頂上に立つ姿を想像しながら。

南アルプスは、北アルプスに比べて登山者が少なく、こんなにも静かであることが信じられなかった。

**・7月19日(金) 晴れ**  
千枚小屋～荒川小屋  
15027 森本信子

千枚小屋(5:30)～千枚岳(6:30)～丸山(8:30)～悪沢岳(9:30)～中岳(12:45)～荒川小屋(14:45)

千枚小屋の周りには、白や黄色のお花がいっぱい、東の空が明るみ太陽が顔を出す。富士山が美しい。

荒川小屋に向けて千枚小屋を5時30分出発する。各自大きなザックを背負い何度も水分補給をし、休憩しながら樹林帯を抜け出す。ザレた道を登り千枚岳に着く。山頂で最初の展望を楽しむ。明日、登る赤石岳を望むことができました。

ゴツゴツした岩尾根、危険な岩場の下り、時間をかけて通過する。ハイマツにおおわれた緑のやさしい姿の丸山に到着する。

お隣の山は悪がきが両手を広げ、とおせんぼうをしているような荒涼とした岩稜の悪沢岳に到着。

名前にふさわしい、標高3141mの今回の最高峰。360度遮るもののない素晴らしい眺望、そして

高度感を味わうことができ、多くの山々が見渡せ、おのおの指をさし山の名前を確認して楽しみました。

ザレた急坂、岩尾根を歩き、小さな避難小屋に着き、何度目かの休憩をする。そして中岳に着く。三伏峠と荒川小屋方面の分岐に荷物を置き、前岳へ向かう。この頃よりガスが湧きだす。

前岳の両斜面は、崩壊が進み荒々しい。のぞき込むと、引きずり込まれそうで怖かった。ガスの中、ライチョウの親子がボンヤリとかすんで見えました。

分岐に引き返し、広大なお花畑の柵(鹿の食害を防ぐため柵が設置されている)の中に入りたり出たり、お花を楽しみながら、ゆっくり荒川小屋へ下りました。

3000<sup>㍉</sup>峰4座をつなぐ長大で、ときにハードなりよう線歩き、花好きな自分にとって、かれんな多くの花々に会うことができ、とても幸せでした。全員が元気で無事、荒川小屋に到着できたことに感謝いたします。ありがとうございました。

### ・7月20日(土) 晴れ

荒川小屋～赤石小屋

14875 木原 充

荒川小屋(5:29)～大聖寺平(6:20)～小赤石岳(8:06)～赤石岳(8:59/9:20)～北沢源頭(11:12)～富士見平(12:43)～赤石小屋(13:37)

今朝も日の出前の富士山のシルエットと朝焼けが美しい。朝食を済ませ、昨日同様に2班に分かれて荒川小屋を出発。20分ほど歩いたところで雪渓を渡り、その後は大聖寺平までは、気持ちの良いトラバース道が続いた。その後、小赤石岳の肩まではかなりの急登であったが、肩からはなだらかなりよう線を進み、



赤石岳山頂にて

小赤石岳を経て、榎島への分岐に到着。

ここにザックをデポして赤石岳山頂へ。山頂からは、東に富士山や筑ガ岳、西に中央アルプスの山々、遠くに白山、南に聖岳、大沢岳、兎岳、北は昨日歩いてきた荒川三山、仙丈岳、塩見岳、間ノ岳、遠方には北アルプスの山々が見渡せ、最高の見晴らしであった。

360度の大展望を存分に楽しんで後、再び分岐へ戻りここで昼食。昼食後、2組のライチョウ親子との出会いに一同感動。

お腹を満たしたところで、今夜の宿の赤石小屋に向け下山を開始した。

道は、ラクダの背と呼ばれる尾根の南側をトラバースする。途中、北沢源頭でノドを潤し、富士見平を経て赤石小屋に無事到着。すぐに小屋の前でビールで乾杯し、至福の時を過ごす。

今日は、昨日のような大きなお花畑はなかったものの、いたるところにシナノキンバイ、ハクサンイチゲ、イフベンケイ、チングルマ、ヨツバシオガマ、ミヤマダイコンソウ、クロユリ、などが咲き乱れ、花の季節の南アルプスと素晴らしい展望を堪能した。今日も一日中快晴。晴天に感謝。

### ・7月21日(日) 晴れ

赤石小屋～榎島～静岡～北九州

13532 馬場基介

赤石小屋(6:05)～登山口(9:45)～榎島発(13:00)～静岡駅発(18:11)～小倉着(22:23)～福岡着(22:10)

最終日は、赤石小屋(2550<sup>㍉</sup>)から榎島の東尾根、別名大倉尾根(東海パルプの創業者で大成建設・サッポロビール・帝国ホテルなどを興した大倉喜八郎氏の名を取って)の下山コースです。

登山口まで標高差1450<sup>㍉</sup>を5分割した標識がある。

4時30分起床、5時朝食、6時05分出発、近くにある旧本館(昭和61年皇太子殿下が荒川三山～赤石岳に登られた時宿泊された。現在は別館として、素泊まり客用として使用、昭和29年建設され、来年解体される)を見学し、下山を開始する。

7時、九州でも見られる銀菴草の群生する5分の4地点で休憩する。所々に巨大なシラビソが茂る長い樹林帯を快適に進む。

急峻だがやはり下りは速い。7時35分、5分の3地点で休憩する。昔木材を運んだ林道跡を通り、ダケカンバの美しい樺段を通過。8時25分、5分の2地点で休憩。9時05分、5分の1地点の田島に到着、登山口まで

最後の頑張りです。

9時45分登山口到着。3時間50分の行程でした。ポイント地点のみでの休憩で、予定より30分早く到着しました。井川山神社で無事故登山のお礼をして榎島ロッジに帰る。

山小屋で知り合い、山中で抜きつ抜かれつした富山県の十井、新井、山崎さんの乗ったバスを見送り、シャワーで疲れを癒す。レストハウス「榎」で冷たいビールと温かいソバでお互いの健闘をたたえ合う。

13時、ロッジの大西さんやスタッフに見送られ、初日に利用した東海フォレストのリムジン



榎島ロッジにて

バスに乗り込む。初日と逆ルートで林道東俣線～畑薙第1ダム。14時ジャンボタクシー2台に乗り換え静岡駅に向かう。

途中、赤石温泉白樺荘でお土産を買う。18時11分発の新幹線で帰路につく。

4泊5日の山旅は、天気にも恵まれ、季節にも恵まれ、仲間に恵

まれ、念願の荒川三山・赤石岳縦走ができました。企画から予約、事前訓練などCL、SLありがとうございました。なお、参考まで経費は、

JR.30,000円 タクシー8,300円  
宿泊代 35,000円  
写真代等雑費1,700円  
合計75,000円と格安でした。

参加者 14人

CL:関口興洋、SL:山田武史、伊藤久次郎、馬場基介、舛木隆、高島拓生、木原 充、森本信子、倉本とき子、福村拓己、井上 薫、大谷恵美子、森 義雄、畑井教子

北九州支部が団体会員として加入している「英彦山のトイレを考える協議会」

### 英彦山山頂のトイレ、今月から着工 来年3月完成予定

(県)特に国指定の史跡文化遺産として登録の関係から中岳山頂付近に物

では、去る9月4日、英彦山のトイレ建設に向けた現状報告、今後の見通しについての説明会を開催した。出席者は、県、町の担当者、町の文化財課、神宮宮司、行政区長、観光協会長、当協議会の各代表など16人。

この時までには、山頂の休憩所にトイレが設置されることは、すでに決定していた。

報告・説明会で、2団体より「英彦山のトイレ計画の再考を願いたい」旨の意見が出された。意見の内容は「休憩所隣にトイレがあるという不快感、休憩所が狭くなり、冬季防寒避難場所としての機能が半減されるなどの理由から、トイレ建設場所の再考を」というものであった。この件の質疑応答は活発に行われ、次のような内容であった。

を建てる、土を動かす等は制限されており、休憩所以外のところでは無理である。

(団体)25年度の建設に固執しなくてもよいのではないか。

(県)建設資金としての国の補助が今後については不透明である。

(県)登山者は、今後多くなることも予想され、このままでは環境はさらに悪化する。この機会は逃せない。

等々の結果、トイレ建設は26年3月完成に向け、この10月から着工される予定である。

(山のトイレ協議会通信第11号参考)

(伊藤久次郎 記)

9月21日(土)

### 第2回 岩登り講習会(唐手岩)

北九453 塚本 久嘉

8時30分平尾台の茶が床園地集合、少し早めに行ったが多くのメンバーがすでに集合していました。今回は見学者を含め13人の参加です。自己紹介の後、鬼の唐手岩へ移動しました。途中登山道脇にはナンバンキセルやサイヨウシャジンなどの花が

目を楽しませてくれます。

唐手岩周辺の登山道は藪状態でしたが、竹本さんが事前に草刈されていて岩の周りはきれいでした。

まずは唐手岩手前の低い方の岩場にロープを2本セット、支点の角度やバックアップなど注



懸垂下降



平尾台唐手岩上部にて

意事項を確認しながら慎重にセットします。ロープのセットが終り懸垂下降のトレーニングです。見学予定だった奥田さん、加藤さんもハーネスとヘルメットを借りて板倉リーダーの指導のもとトレーニングに参加しました。

最初は緊張されていたようですが、一度懸垂下降をすると面白さにはまったようで、次回は自前の装備で参加するそうです。

各自、3～4回懸垂下降のトレーニングを終えたところで少し早い昼食を取りました。しかし今日は暑い、日陰も無いし風も無い、日差しが強いし蒸し暑いです。食事中、頭上には沢山

のパラグライダーが飛んでいて、とても気持ち良さそうです。

午後からは二手に分かれてトレーニングをしました。鬼の唐手岩にロープをセットして懸垂下降と登りのトレーニングをしました。こちらは高度感があり緊張します。一度、懸垂下降で下まで降りて交代で確保して登り返します。途中ちょっとしたオーバーハングがあり戸惑いいますが竹本さんがカラビナを掛けてくれているのでカラビナを握り力技で攀じ登りました。

午後2時ロープや器具を片付けトレーニングは無事終了、茶が床園地へ戻り解散しました。

さわやかな秋風が吹く中でトレーニングを期待していましたが・・・ほんとに暑かった。緊張と暑さで喉がカラカラでした。

春に続き2度目の岩登り講習会参加でしたが、確実に進歩していると実感しています。私自身、岩場が好きでも高いところが好きでもありません、むしろ高い所は怖いほうです。岩登りのトレーニングに参加しているのは、難易度の高い山に行きたいというのがありますが、バリエーションルートに行かなくても山で岩場は普通に出くわします。難易度の高いトレーニングを積むことでより安全により楽に通過できればと思い参加しています。

板倉さん、竹本さん両リーダーご指導ありがとうございました。参加のみなさんありがとうございました。みなさんまた参加しましょう。

参加者(11人) 板倉健一、竹本正幸、原広美、西村信子、森本信子、縄手修、塚本久嘉、坂井義臣、堀江俊明、奥田スマ子、加藤信子、

撮影班：伊藤久次郎

見学：濱松禮子、竹本加代子

## RKBラジオが風師山にて中継放送

### 「ふるさとの富士山」

14264 丹下 治

大楠監事より「7月8日RKBラジオが風師山から中継放送をするので行ってくれないか」との連絡をいただき(前後して風師山早朝登山会、門司区役所からも同様の要請あり)8時30分、車道の終点で門司歩こう会会長小田幸男さんと合流。

RKBの「スナッピー」女性レポーターと技術担当女性スタッフ、さらに門司区役所からの2人で打ち合わせ、電波状態のチェックを行う。

「ふるさとの富士山」とのテーマで、門司区大里出身のディレクターの提案で風師山へ・・・となったそうです。

できれば山頂より中継したいとの要望で、前日

までの雨で滑りやすい山道を歩く。今日は、梅雨明けでとにかく蒸し暑い。山頂で風師山について説明を行う。その話をもとにレポーターが台本をまとめる。

その結果、私が風師山の概略を、小田さんが早朝登山について説明をすることになるが、放送時間は5分間、正味話ができたのは3分少々。それでもRKBスタッフは素晴らしい展望に感激。再度、仕事ではなくゆっくり歩いてみたいとのこと。

さて、今からの予定を尋ねると「小倉南区北方の銭湯にある富士山の絵」を取材に行くそうです。「ふるさとの富士山」の趣旨が分かりました。ところで私たちにとって「風師山はどんな山ですか」との質問に、小田さんと2人で「ふるさとの心の山です」と即答する。

## 80歳で4回目の富士山登山

No.13541 高島 拓生

### ○近況～里山の登山道整備

私は、19歳3カ月で就職、79歳8カ月で仕事を終え、60年5カ月間勤務させていただき、各会社、先輩、友人と家族の支えに感謝致します。

退職後は年金生活に入り、生活苦を味わっていますが、今後は山に関わり、社会に恩返しできればと思っています。15年ほど前から地元嘉麻の里山の登山道整備を手始めに、営林署関係の友人と山歩きや、熊ヶ畑小学校生徒を登山案内すべく登山道整備を地元PTAの皆さまと行い、その後は三高山周辺地区を手入れ。2010年2月号の「山と渓谷」に紹介されたことで、市内外、県外からも訪れる登山客が増えました。

嘉麻市観光課、農林課の人たちからも三高山山小屋、登山道の存在を広く知ってもらいたいと市職員と事前に下見登山を行い、そのガイドを致しました。

第1回体験モニターツアーは、3月8日観梅を兼ね、20人をガイド致しました。第2回は親子ツアーは、秋を予定しています。

山に携わる団体、組織の横割交流や嘉麻市観光まちづくり協議会に私も加入し、市政企画、開発に協力を求められ、現在継続中です。

### ○南アルプス・荒川三山と赤石岳へ

7月17日～21日、14人のメンバーに参加。80歳の年齢から見て長丁場は無理かなと思いましたが、事前トレーニング(小倉足立山～門司戸ノ上山)に参加して、リュックの重さと暑さでバテました。最後の機会と思い、

リュックの重さを減量して参加させていただき、皆さまに助けてもらいながら、無事山旅を楽しませていただきました。そのうえ好天気に恵まれ、富士山の勇姿をカメラに納め、高山植物の花畑と雷鳥の親子に出会えて最高の山旅でした。清涼の山歩きは、心に深く残り、北アルプスとは異なった思い出ができました。有り難うございました。

### ○悪天候の富士山登山



中央が高島さん

7月28日～29日、登山道整備の調査の折、初対面で知り合った3人の岳友とサンシャン・ツアー47人に参加。羽田空港集合。インターネット申し込みで、山ガールや山ボーイの若者が多く、富士スバルライン入口手前の“山道具レンタル屋”に立ち寄る。富士山まるごと6点セット16,000円。ほかサングラス、レインハット、手袋、ザックなどとスキー感覚ですね。ビックリ!

5目雲上閣更衣室で旅行スタイルが一変!登山姿に変身する。初めて登山するものもいる様子。現地ガイドの説明、注意事項、装着リュックの高さの調整をガ

イドが全員チェック。予定時間が1時間遅れて出発。6日目指導センターで再指導を受ける。

8日目上江戸屋に22時25分到着。夕食は30分遅れ。床下が低いカイコ床に詰め込まれ、23時30分ごろ仮眠。私は夕食時より両足筋肉痛で七転八倒、一睡も出来ず1時起床。1時45分登り始め、曇天というか霧の中を歩き、登山者の多さと各パーティに追いつ抜けられつしながら、山側を歩くようガイドの高い声で注意が再三ある。下山者は谷側通行で怖い。山頂手前登山道に4時12分到着。富士山頂のスピードのある風の恐怖を初めて体験する。

そのうえ白いミゾレが降り、厳しい寒さで、体感温度も低下したので隣人に寄り添う。ガイドに早く下山したいと誰もが言う。1時間後3～4分登頂して引き返し、全員待機場所で靴ひもに色別テープを取り付け、われわれパーティは点呼

して確認。

下山開始。厚い雲の横筋の間から瞬間顔を出した太陽の光を見ただけでも良かったと思います。写真は2枚のみです。8時55分下山。最悪の富士登山でしたが、私としては良い体験で話題になり、登山装備に十分気をつける学習になりました。次回85歳で挑戦できるかな・・・。

富士山は世界遺産登録になりましたが、3年後の諸条件をパスか否かを見守りたいと思います。

2カ月間の登山期間ですが、関係者、ガイド対応、店舗、更衣室、ロッカー整備、宿泊関係(カイコ床詰め込み、高圧釜使用の食事～今回、米が炊けてい

ないので弁当は廃棄した)、5合目の登山口の広場にある各ツアーの集合場所が、雨天の場合待機室不足、店舗内の階段などに登山客が混雑・・・などの問題点を感じました。

スバルラインはバスとタクシー

のみで一般車進入禁止は当然と思いました。登山料金は山梨県、静岡県側との登山客割合、その他条件が異なり検討のうえ決めることでしょう。



8月19日(月)～8月23日(金)

長年の夢、北アルプス「梅海新道」を歩く

15027 森本 信子

小野健さんを中心に「さわがに山岳会」の仲間たちが青春の夢に10年の歳月を費やして、北アルプス朝日岳から日本海まで、多くの山々を汗と涙で切り開かれた道「梅海新道」。営業小屋なし、水場も少ない(涸れることがある)、携帯電話もつながらず、行き交う人も少ない、大自然の真ただ中を高齢者2人が無謀な挑戦をしてきました。

### ●8月19日(月) 移動日

下関～泊駅～北又小屋

くりお茶にする。

一旦下り、登り返しているとき、3人組に出会う。女性の方が「この方が小野建さんです」と紹介される。偶然にも本人に会えて、うれしかった。会話中「梅海山荘はワシの別荘だ」「協力金2,000円置いて行ってほしい」「ワシの飲み代と思うかも知れんが、そんなことはない」また「坂田峠でタクシーに乗る人もいるが、最後まで歩いて日本海にザブンと飛び込んで欲しい」とも言われました。

素敵な出会いに元気をもらい、緩斜面にお花が広がる夕日が原、前方に雪渓も残っていました。前朝日の山腹を、木道伝いに朝日平へ、小屋まで0.5kmの立札のところからポツポツと雨が降り出し、急いで赤い屋根の朝日小屋に駆け込みました。しばらくすると、大雨になりテント泊の予定者も皆小屋泊りになりました。

### ●8月21日(水)

朝日小屋(5:45)～朝日岳(6:45)～吹上のコル(7:10)～長梅山(8:10)～アヤメ平(8:40)～黒岩平(10:11)～黒岩山(11:00)～サワガニ山(14:54)～犬ヶ岳(15:13)～梅海山荘(15:25)

昨夜の雨もやみ、小屋を後にする。ゴロゴロの道、登山道の補修のための材料が点々と置かれ歩きにくい。樹林帯の急坂を登り、丸くてやさしい朝日岳山頂(2418m)は今回の最高地点、そして吹上のコルへ下る。吹上のコルは、五輪尾根の分岐であり、そして梅海新道の始まりの案内板がある。

シラビソ、ツガの林を抜けて照葉の池(次女の名)さらに木道が続く。長梅山(2267m)は広くて平坦である。

草原の広がるアヤメ平の湿原は、ヒオウギアヤメの群生地、光琳の絵のように美しい。また、多くの花々が咲き乱れ、まるで桃源郷のようでした。もう少し早い時期のほうがよい。

樹林帯と草原を繰り返し、広々とした黒岩平に着く。ベンチが設けられていた。荷を下ろし、腰を掛けてゆっくり景色を楽しみながらコーヒータム。冷たい水が流れる小川があり、涼しい風が気持ち良い。

黒岩平を横切り、中俣新道の分岐点(唯一のエスケープルート)を左手に、樹林帯を登り黒岩山(1623m)に着く。ここからはりょう線歩きの登降を繰り返し文子の池、サワガニ山、(1612m)そして北又の水場で今晚と明日の水を補水した。重くなったザックを背負いやセ尾根の急坂を何度か越えて犬ヶ岳(1593m)山頂に着く。少し下ったところの梅海山荘にやっとたどり着きました。今夜の山荘利用者は5人、4人は明日親不知へ下り、1人は朝日岳へ登る。5人が色々とお話をする。

### ●8月20日(火)

北又小屋(5:30)～ブナ平(7:40)～イブリ山(9:30)～夕日が原～朝日小屋(11:45)

北又小屋を出発すると、すぐにコンクリートの階段を下る。北又ダムの下にかかる吊り橋を渡る。樹林帯の急登が続く、1合目2合目の印を見ながら、5合目のブナ平に着く。ブナの巨木があり、初めての平坦地、左手の水場で補給し、一休みする。

急な樹林帯をひたすら登りイブリ山(1791m)に着く。ここでゆっ



北又小屋にて(右側が森本さん)

## ●8月22日(木)

梅海山荘(5:30)～黄蓮山(6:37)  
～菊石山(7:45)～白鳥山(10:10)～  
坂田峠(13:05)～尻高山(14:03)～  
梅海新道登山口(16:30)

山荘出発すると細くて急なゴゴゴ道、階段、ロープが設置してある。滑らないように注意して歩く。ブナの林が美しい黄蓮山、少し下って水場で水を汲む。菊石山(1209<sup>㈬</sup>)はアンモナイトが発見され菊石山の名前が付けられたとのこと。木の根と岩をつかみ登ると下駒岳(1241<sup>㈬</sup>)。白鳥山の手前で、

先に出発された関西の2人に追いつく。

そして一緒に白鳥山(1286<sup>㈬</sup>)に着く。隣の白鳥小屋に入ってみると、とてもきれいな小屋でした。

シキワリの水場で冷たい水を飲む(最後の水場)。4人が前になり、後になりながらロープやハシゴの急坂(金時坂)を下り坂田峠に着く。

関西の2人はここからタクシーで帰路へ。私たちは一休みして日本海を目指す。杉の植林があり、里山の様相である。尻高山、二本松峠、入道山を経て、林の中から

青い海が見え急に元気になる。国道8号線の梅海新道登山口に出る。国道を渡りホテルへ、荷物を置いてホテル横の階段を日本海へ。

## ●8月23日(金) 移動日

おやしらず(大雨のため線路が浸水し電車動かず)～遅れて帰宅。

黒岩平までは、楽しい山行でした。後半は、のこぎりの歯を斜めにしたように、何度も登降を繰り返しながら、高度を下げて行くために、気の抜けない厳しい縦走でした。長年の夢が実現できて、幸せです。

北浦スカイライン

は、海を眺めながら歩く縦走路である。

昭和38年12月15日、

下関山岳会の月例登高で兼平先輩が係として他6人が「北浦スカイライン」を歩いている。記録がないので詳細は不明だが、おそらく吉見龍王神社から竜王山、鋤崎山を経て、当時は何もなかったが現在の済生会病院の地に下ったと想像する。このころの尾根は、笹と茅のやぶ漕ぎであったが、樹木がないので終始展望がよく「スカイライン」であった。

新スカイラインの開拓は、昭和56年1月に私一人で開始した。最初に竜王山山頂の次ピークから吉見峠の間に取り掛かり、鉋と鋸で一人コツコツと作業した。4月の山口県岳連会合の雑談で話したところ、そこで秋の県体をすることに決まってしまった。慌てて下関山岳会会員を動員、草刈り機を使い、暑い盛りに鬼ヶ城までの間を完成し、9月には山口県体山岳部門をこのコースで実施し、コース開きをした。

吉見峠は伐採植林のためにコースが二転三転したし、いばらが繁茂して通行できないとのクレームも寄せられた。昭和60年には鬼ヶ城山麓に下関山岳会のくるみ小屋が移転新築され、小屋に泊まり、翌日鬼ヶ城に登り竜王山まで縦走するが、下関山岳会の会員だけが歩くのでは径は廃れる、もっと多くの人々が歩かなくてはダメだ。そこで平成3年から標識を立て、コースの存在を知らしめることにし、竜王山山頂の北の次峰に「鬼ヶ城へ吉見峠経由」を立て、次に吉見峠に2本立て、鬼ヶ城の山頂にも立てたら、しばらくして、会員以外のひとが縦走するようになった。横野から週4回鬼ヶ

## ＝北浦スカイラインにおいでませ＝

11454 井上 佑

城を往復する人まであらわれ、少し回数を減らせとアドバイスしたこともあった。

もう700回も往復したかもしれない。

平成10年になってからは狩音山から北に延伸し、石畑峠までのコースを一人で拓いた。平成12年秋には石畑峠が掘削され県道が通じ、お地蔵さんの位置が峠である。こうして川棚温泉から中国自然歩道を利用し国清山を経て鬼ヶ城、竜王山から深坂池まで歩けるようになった。このころには、そこそ歩ける程度になれば、案内標を付けると直ぐに人が歩いてくれ行程が早まった。

平成15年からは、深坂池合流点から安岡済生会病院までの南尾根コース作りに一人で励んだ。この径は昭和40年ころまでは薪集めのために利用されていたが、今では倒木の山となりチェーンソーが大活躍した。

足かけ27年かけ、平成19年には石畑峠から安岡畑代まで歩けるようにした。そして縦走路名を「北浦スカイライン」とした。多くは私一人で拓いた縦走路だが、いまでは多くの知らない人たちが、この縦走路の草や笹を刈ったり、急坂にロープを張ったりしている。困るのは、目印のつもりであろうがポリ袋、PPバンドなど古包装材を付ける人がいるのでやめてもらいたい。

出発はJR山陰線川棚温泉駅→川棚温泉妙青寺→国清山展望台→林道を石畑峠→タコ踊り→藤五郎峠→正月ヶ峰→白滝の頭→狩音山→鶯ヶ巣→せきんじ岐れ→鬼小屋→鬼ヶ城→広瀬コブ→汐見岩→桜ヶ谷→吉見峠→竜王山→鋤崎山→深坂堰堤分岐→シタキ場山→日影山→南登山口→JR安岡駅に着く。

かねてから、私は果たしてアイヌは九州にもいたのかと疑問を抱いて

いた。アイヌは北海道東北に限って住んでいたかと思っていたのである。だが、ある文献によると明治27年の民俗学会において、アイヌは石器時代人として日本全国に広く住んでいたという学説が小金井良精博士によって発表されている。福島安達太良山のアタタラ「われらの山」はともかく富士山のフジ「日の山」四国の四万十川のシマント「美しい川」そして私の住む北九州門司のマンシー「船の集まるところ」などはアイヌ語に由来する地名であると聞いても疑心暗鬼であったがそれで納得できた。

それでは「久住山はアイヌ語からきているのか、大分に「クシフルの会」という九重愛好団体があ

## 「九重山」はアイヌ語か(その1)

13465 大楠 益弘

というのが通説となっているようである。

登山家であり古代地名研究者でもある

古川純一氏によると「クシ」はアイヌ語で「向こう」「フル」は「丘」つまり「クシフル」は「向こうの山」を意味しているという。「麓から見える山」を意味しているのであろう。

「九重」について考えてみれば「クシフル」が「くじふ(旧仮名づかい)になり、さらに「くじう」「くじゅう」と変化していったと見るのもあながちこじつけでもないと思う。

この地名は高千穂町にも三カ所あるという。

他に類似する地名として九州では、日南市楠原、川内市久住町、宇佐市葛原、小倉南区葛原がある。もしやアイヌ語を語源とするのではないかと古代アイヌの風景に想いを馳せる。口マンが掻き立てられ、楽しくなる一刻でもある。

7月21日(日)

### 風師山早朝登山、1400回記念登山

14264 丹下 治



「入峰のほら貝」を吹鳴

風師山早朝登山は、昭和30年4月1日、旧門司市教育委員会の提案を受け故・堤甚五郎氏(JAC4162)が中心となって始まった。

教育委員会、門司山岳会を経て現在、風師山早朝登山が行っている。

現在、毎月第1・第3日曜日午前6時30分に風師山岩峰集合。ラジオ体操の後、登山道の清掃、整備、山の情報交換などを行っています。その登山会も発足して59

年目、平成25年7月21日一回の休みもなく、1400回を迎えることになりました。

新聞各社に案内取材を要請しましたが、参議院選挙と重なり、ちょっと無理でしょうとの返事、それでも西日本新聞が事前の案内記事を掲載して下さり、またRKB

ラジオが9時より門司港駅前以案内放送をしてくれました。

さて、私たちは6時より荷揚げ、炊事場の設営、団子汁の炊き出し準備。小田幸男さんは門司港駅へ風師山不案内な方の出迎えとRKBの取材協力のため下山。かつては下関要塞、戦後はGHQの管理下にあり、一面草原の山も昭和28年の大水害で山肌には多くの爪痕がきざまれたが、現在は木々が茂り

周囲の展望も狭まれる状態となり、59年の年月を感じます。

門司港駅からの登山者も到着。その中に旧知の井上辰彦氏の姿がありました。井上氏は英彦山「財蔵坊」を中心にボランティアガイドをしておられます。また、ほら貝の名手で今日、山頂で「入峰の法螺」を吹鳴していただきました。

このことに全員が感激して、旧交を温めるとともに、あと4年2カ月後に迎える、1500回記念の際にもぜひ登頂の上、ほら貝を吹いていただくことをお願いいたしました。

参議院選投票日と重なったことで参加者は少なかったが、次へ続くステップになる1400回記念登山でした。2年後には、かんざし小屋(風師山避難小屋)完成50年記念行事が待っています。

故・堤甚五郎氏がまいた種が永くながく花を咲かせ「かんざし」を彩って下さい。

北九州支部参加者：丹下 治  
丹下香代子、池田智彦

## ルーム当番

会員はいつでも警備室からキーをもらって入室できます。  
当番へのご協力をお願いします。連絡先：山田武史 (TEL.092-844-3565)



### 10月

	当番	備考		当番	備考		当番	備考
1日(火)	関口		11日(金)	関口	中高年安全登山	21日(月)	丹下	雨飾山
2日(水)	大内		12日(土)	/	指導者講習会(熊本)	22日(火)	竹本	
3日(木)	伊藤		13日(日)	/	同上	23日(水)		
4日(金)	木原		14日(祝)	/		24日(木)		
5日(土)	/		15日(火)	竹本		25日(金)	関口	
6日(日)	/		16日(水)	大内		26日(土)	/	広島支部との
7日(月)	丹下		17日(木)	木原		27日(日)	/	交流登山(三瓶山)
8日(火)	山田		18日(金)	関口		28日(月)	丹下	同上
9日(水)	伊藤		19日(土)	/		29日(火)		
10日(木)			20日(日)	/	全国支部懇談会	30日(水)		小倉サロン
						31日(木)		

### 11月

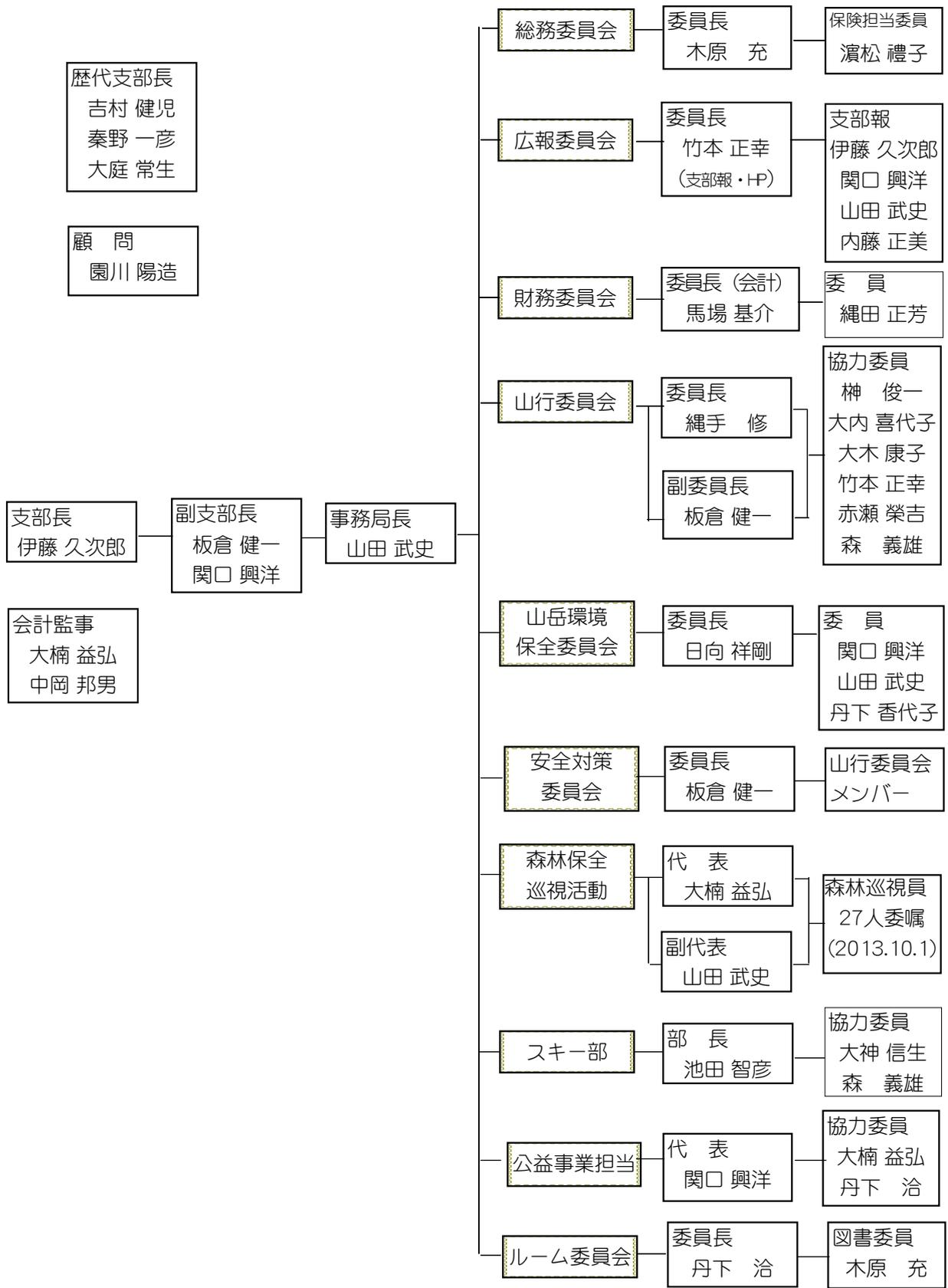
	当番	備考		当番	備考		当番	備考
1日(金)			11日(月)	丹下		21日(木)		
2日(土)	/	ウエストーン祭	12日(火)	関口	トイレ協議会	22日(金)	森	
3日(日)	/	同上・記念山行	13日(水)	竹本		23日(土)	/	
4日(祝)	/		14日(木)	森		24日(日)	/	
5日(火)	関口		15日(金)	伊藤		25日(月)	丹下	
6日(水)	伊藤	役員会	16日(土)	/		26日(火)	関口	
7日(木)		博多サロン	17日(日)	/		27日(水)		田原山
8日(金)			18日(月)	丹下		28日(木)		
9日(土)			19日(火)	関口		29日(金)		
10日(日)		筋ガ岳	20日(水)	竹本	小倉サロン	30日(土)	/	

### 12月

	当番	備考		当番	備考		当番	備考
1日(日)	/		11日(水)	竹本		21日(土)	/	米神山(宇佐)
2日(月)	丹下		12日(木)			22日(日)	/	
3日(火)	関口		13日(金)			23日(祝)	/	
4日(水)	伊藤		14日(土)	/	忘年の集い	24日(火)	関口	
5日(木)	森		15日(日)	/		25日(水)	伊藤	
6日(金)			16日(月)	関口		26日(木)		
7日(土)	/	年次晩餐会(東京)	17日(火)	丹下		27日(金)		
8日(日)	/		18日(水)	伊藤		28日(休)	/	
9日(月)	丹下		19日(木)			29日(休)	/	
10日(火)	関口		20日(金)	森		30日(休)	/	
						31日(休)	/	

日本山岳会 北九州支部  
組 織 図

平成25年10月1日



# 会 務 報 告

## ● 平成25年7月定例役員会報告

- ・日 時：平成25年7月3日(水)
- ・場 所：当支部ルーム(毎日会館1F)
- ・出席者：伊藤、板倉、関口、馬場、山田、丹下、  
竹本、木原、池田、縄手、中岡
- ・欠席者：日向、大楠
- ・議 題：

### (1) 会員の異動(6月1日現在)

通常会員 76人(棕本さん退会) - 1人  
 支部友 55人(森、広瀬、畑井入会)  
 + 3人  
 会友 4人 + - 0人  
 計 135人(+2人)

### (2) 会費の納付状況

未納者 16人に対し、支部報に同封して督促状を送付する。

### (3) 山行・行事報告

- ・5月21日(火) さいわい幼稚園(年長、年中組)風師山登山は、園児、保護者園先生等47人の参加。(内JACより6人がサポート参加)
- ・5月23日(木) さいわい幼稚園(年少組)風師山登山は園児、保護者、園先生等50人の参加。(内JACより6人がサポート参加)
- ・5月25日(土) 英彦山山開き前夜祭は、当支部8人と広島支部より4人が参加
- ・5月26日(日) 英彦山山開き神事は、当支部12人、広島支部4人、ビジター8人計24人が中岳上宮での神事に参加。
- ・6月8日(土)~9日(日)尾鈴山は、マイクロバス利用で、15人参加。但し、9日は雨天により登山中止。若山牧水文学碑見学に切り替えた。
- ・6月15日(土) 福智山、七重の滝の沢登りは、5人参加。雨天の中、頑張った。
- ・6月23日(日) 「山のトイレ協議会」総会は、当支部より3人参加。記念講演は、熊谷信孝氏による「英彦山の自然環境、いまむかし」。

### (4) 山行・行事計画

- ・7月6日(土)~7日(日) 自然保護全国集会(富山)
- ・7月13日(土) 血倉山(園川講師による山岳技術専科)
- ・7月17日(水)~21日(日) 南アルプス(千枚丈~赤石岳縦走)
- ・7月27日(土) 脊振山のキツネのカミソリ撮影

### 登山

- (5) 支部報(No.66)の発行、発送予定日について
- (6) 支部組織図について  
ルーム委員会の新設、山行委員会の協力委員募集。総務委員長、図書委員の人選を協議した。
- (7) その他
  - ①、森林巡視員の更新(昭和25年11月末で期限満了)
  - ②、平成25年度安全登山の指導者講習会
  - ③、全国支部懇談会への参加呼びかけ。

(記載者：山田 武史)

## ● 平成25年7月臨時役員会報告

- ・日 時：平成25年7月29日(月) 18:00~20:00
- ・場 所：当支部ルーム(毎日会館)
- ・出席者：伊藤、関口、馬場、山田、丹下、大木、  
竹本、縄手=計8人
- ・欠席者：日向、大楠、中岡、池田、板倉=計5人
- ・議 題：「親子で楽しむ山登り」の原稿作成
  - (1)7月11日付けにて本部の吉川常務理事(家族登山普及ワーキンググループ)より、全国の各支部長に対し、親子で登れる山を各支部で1山程度、8月末までに紹介、投稿の依頼があった。
  - (2)このテーマの対応として伊藤支部長より「大木会員の親子」と「貫山」が提案された。
  - (3)役員会でも支部長の提案を了承し、山行委員長が取材登山の日程を調整の上、8月末までに山登りの原稿を本部に送付するスケジュールを打ち合わせた。

(記載者：山田 武史)

## ● 平成25年9月定例役員会報告

- ・日 時：平成25年9月4日(水)
- ・場 所：当支部ルーム(毎日会館1F)
- ・出席者：伊藤、板倉、関口、日向、馬場、山田、  
丹下、竹本、木原、池田、縄手、大楠、  
中岡
- ・欠席者：なし
- 議 題：

### (1) 会員の異動(9月1日現在)

通常会員 77人(武永入会) + 1人  
 支部友 61人(高岡、久原、堀江、奥田、  
 二尾、加藤入会) + 6人

会友 4人 増減なし  
計 142人 +7人

としたが、予定通り進んでいる。  
9月19日にルームで会合開催。

## (2) 会費の納付状況

未納者は10人(前回より6人減)

## (3) 山行・行事報告

- ・7月06日(土)~7日(日) 自然保護全国集会(富山)は、日向さんが参加。
- ・7月13日(土) 血倉山(園川講師による山岳技術専科)は、16人参加。
- ・7月17日(水)~21日(日) 南アルプス(荒川岳~赤石岳縦走)は、14人参加。  
入山以降連日好天に恵まれ、快適な山行だった。
- ・7月27日(土) 脊振山のキツネのカミソリ撮影登山は、7人参加。
- ・8月10日(土) 血倉山(園川講師による山岳技術専科)は、19人参加。
- ・8月11日(日) 貫山(親子登山コースの取材)茶が床園地スタートは、5人参加。
- ・8月22日(木) 貫山(親子登山コースの取材)吹上峠スタートは、5人参加。

## (4) 山行・行事計画

- ・9月07日(土) 血倉山(園川講師による山岳技術専科)
- ・9月21日(土) 岩登り教室(講師:板倉副支部長)
- ・9月28日(土)~29日(日) 九州5支部懇談会(主管:福岡支部)
- ・10月20日(日)~21日(月) 全国支部懇談会(主管:静岡支部)
- ・10月21日(月)~23日(水) 雨飾山登山
- ・10月26日(土)~28日(月) 広島支部との交流登山(三瓶山)
- ・11月02日(土) 宮崎ウェストン祭
- ・11月03日(日) ウェストン祭(清栄山登山)
- ・11月10日(日) 筋ヶ岳(あざみがたけ)登山
- ・11月27日(水) 田原山登山

## (5) 支部報(No.66)の発行予定について

- ・10月07日頃印刷、遅くとも10月10日まで発送する。

## (6) 親子登山コースの取材と結果について

- ・8月11日、22日の取材登山と、8月28日の編集会議に基づき、伊藤支部長が編集を行い、予定通り、30日に本部谷内委員に資料送付した。

## (7) 300名山の取材状況について

当支部担当の「脊振山」、「英彦山」は、記事作成を井上佑、写真担当を伊藤久次郎

## (8) 支部の組織図について

かねてより協議して来た当支部の組織図も、役員のご理解を得たので、次の支部報で発表する。

## (9) その他

- ①、門司散歩会の今後について  
現在リーダーを勤めている大楠さんより、今後の存続について相談があった。  
次回の役員会で再検討の事とした。
- ②、山岳保険の加入推進について  
軽登山のみならず、レスキューを必要とする遠征登山参加者にも保険未加入者が見受けられた。保険加入の啓蒙に努めたい。

(記載者:山田 武史)

## 忘年の集い

と き: 12月14日(土) 17:00~19:00

と ころ: 博多サンヒルズホテル

TEL 092-631-3331

(JR吉塚駅正面信号を右折徒歩3分)

会 費: 5,500円

集合場所&時刻

- ・記念山行: 立花山(367m)と三日月山(272m)登山

集合場所: JR香椎駅前 10時00分

- ・会場へ直接行かれる方は16時30分迄に会場へ申込み: 11月30日まで

宿泊希望者は早めに連絡をお願い致します。

(博多サンヒルズホテル シングル素泊5,200円)

赤瀬 栄吉

TEL 092-943-8223 携帯 090-7475-9748

Eメール b105ei.akase@cap.ocn.ne.jp

榊 俊一 TEL 090-8416-4194

中岡邦男 TEL 090-4778-7707まで

<JR普通時刻 参考>

- ・下関08:27→小倉08:40乗換

小倉08:59→香椎着09:53

- ・下関14:53→小倉15:08乗換

小倉15:11→吉塚着16:18

## ◆◆山行計画のご案内◆◆

### 11月の山行

#### 1. 宮崎ウエストン祭

と き：11月2日(土) 受付15:30 16時～式典

会 場：高千穂町五カ所高原「三秀台」

集 合：道の駅「おこしかけ」 10時

宿泊場所：五カ所公民館(ひめゆりセンター)  
(寝袋、マット持参)

交流会：五カ所野菜集出荷場 神事18時～  
伝統芸能、バザー、特産品即売会、  
キャンプファイヤー

会 費：3,000円(宿泊、交流会、朝食、弁当代)

申込み：竹本正幸 TEL 0930-26-9611

締切り：10月25日

#### ・記念山行

① 赤川浦岳(1232㍎) 約4時間

② 清栄山(1006㍎) 北九州支部計画

あざみがたけ

#### 2. 筋ヶ岳(1004.2㍎)

目的：石鎚神社信仰の山と山頂直下の鎖場を楽しむ

と き：11月10日(日)

集 合：

・マイカー：中国自動車道鹿野SA 8:40

・マイカーでない方

山陽本線新下関駅7:30集合 マイカー  
で乗りあって鹿野SAまで行きます

※鹿野SAで全員集合後登山口まで行きます

申込み：原 広美 TEL 083-245-5490

携帯090-6832-2128

締切り：11月2日

#### 3. 田原山(鋸山) 542㍎

目的：紅葉と熊野磨崖仏観賞

と き：11月27日(水)

集 合：田原山(鋸山) 登山口駐車場10時00分

・国道10号線を下り「下市北」信号を左折、  
山香温泉風の郷(0977-75-1126)を過ぎ3km先  
が集合場所です。(鋸山トンネル手前)

\*駐車場にトイレ「鋸山登山案内図」あり

下山は熊野神社側の予定 拝観料 200円

申込み：赤瀬栄吉 TEL 092-943-8223

携帯090-7475-9748

E-Mail b105ei.akase@cap.ocn.ne.jp

締切り：11月20日

### 12月の山行

こめかみやま

#### 1. 米神山(475㍎)

「巨石信仰・ストーンサークルの山」

と き：平成25年12月21日(土)

集 合：道の駅「おこしかけ」 8時30分

申込み：丹下 洽 TEL: 093-391-8193

携帯：090-3732-8843

締切り：12月14日

※固定ロープが多い山です。ノンスリップの手  
袋が重宝。温泉は各車両で判断。

### 1月の山行

#### 1. 霧氷の妙見岳・普賢岳(平成新山)

目的：妙見岳と普賢岳の霧氷と平成新山パノラマ  
コース登山

と き：平成26年 1月5日(日) 日帰り

集 合：6時30分 鳥栖PA(前方ローソン付近)

6時40分出発

長崎自動車道、諫早IC、諫早料金所(料金所  
出てすぐ左側再集合)

34号-57号(雲仙方面)~57号(小浜)

または128号(小浜町雲仙)

9時00分：仁田峠駐車場

仁田峠登山道出発~妙見岳~国見分かれ~鬼人  
谷口~西の風穴~北の風穴~鳩穴分かれ~立岩  
の峰~霧氷沢~普賢岳(途中昼食)~紅葉茶屋  
~仁田峠駐車場~雲仙小地獄温泉館入浴~入浴  
後小浜方面へ帰宅

費用：各自乗り合い車の高速代とガソリン代

携行品：冬山の装備服装、登山中の昼食、飲み物等、  
アイゼン、雨具、ヘッドランプ帽子、手袋、テ  
ルモス、行動食および非常食、地図、コンパス、  
ストック、スパッツ、保険証、医薬品(持病薬)、  
入浴後の着替え

解散時間：5日の雲仙小地獄温泉入浴後 16時頃

申込み：榊 俊一 TEL 092-947-3208

携帯：090-8416-6194

締切り：平成25年12月28日



### お知らせ

#### ■群馬支部が誕生

設立日：平成25年7月13日、32番目の支部

支部員数：24人

支部長：田中 荘 佑 (7968)

事務局長：八木原 窓 明 (8654)

所在地：群馬県前橋市竜蔵寺町275-5  
八木原方

TEL：027-233-2683

FAX：027-233-2690

メールアドレス：gmn@jac.or.jp

#### ■蔵書

井上佑会員より雑誌「アルプ」169冊寄付

#### ■ルームカンパ(1口：千円)

池田智彦 様 10口(1万円)

兼光 功 様 10口(1万円)

【ありがとうございます】

### 小倉サロン

- ・場所：小倉北区魚町「コール天」
- ・時間：6時30分から
- ・参加申込み：山田武史 (TEL092-844-3563)
- ◎10月30日(水)
- ◎11月20日(水)

### 博多サロン

- ・場所：博多区吉塚本町13-55  
サンヒルズホテル内 居酒屋「呑多来」
- ・参加申込み：榊 俊一 (TEL092-947-3208)
- ◎11月7日(木) 6時30分から

#### 編集後記

山岳会員の高齢化をひしひしと感じるこの頃、若者の入会と育成は焦眉の急である。

○原稿は事務局長山田武史又は竹本正幸へ。

- ・メールまたはFAXをお願いします。
- ・Eメール(写真を含む)は竹本宛て
- ・アドレス：takemoto.masayuki@white.plala.or.jp (67号の原稿は12月25日までにお願いします。)

## 山やが集う よし 舌すし



「魚と舍利とは、仲良ければ  
仲でわさびが邪魔をする」

- 小倉北区京町3丁目6-14
- TEL：093-541-2623
- 橋爪 久吉(会員番号北九423)
- 橋爪 明代(会員番号北九442)

ご来店をお待ちしています

登山・アウトドアの専門店  
**好日山荘**  
SINCE 1924

里山ハイキングからアルプス、海外トレッキングまで、  
専門店ならではのアイテムが幅広く揃います。

好日山荘 アイム小倉店

〒802-0002 福岡県北九州市小倉北区京町3-1-1 COLET/1'm 7F TEL:093-512-3459 営業時間/10:00-20:00

小倉駅 小倉駅前郵便局 九州電力 小倉中央 砂津バスセンター

至博多 至門司

リーガロイヤル ホテル小倉 砂津川 JR山崎新幹線 平和通駅

**アイム小倉店**  
COLET/1'm 7F

有料P有り

株式会社好日山荘ホームページ  
http://www.kojitsuzan.jp/ 好日山荘 〒802-0002 福岡県北九州市中央区京町3丁目10-30